

新型コロナウイルス感染症流行にあたっての教養研究センターの姿勢について

2020年初頭からはじまった新型コロナウイルス感染症の流行によって、慶應義塾大学は、卒業式の中止、入学式の延期を始め、学事日程の大幅な変更を余儀なくされました。学生、教職員が一つの場所に集まって膝を突き合わせて共に学ぶ場を「塾」と呼ぶとすれば、人が集まることが制限される昨今の状況は研究教育機関としての慶應義塾にとって最大の試練と言えます。

教養研究センターも、慶應義塾大学設置の諸研究所の一つとして、福澤諭吉の慶應義塾開学の理念のもと、教養を核としたさまざまな研究・教育活動を行ってきました。特に、当センターは、開所当時から「身体知」というコンセプトを掲げ、心と頭と体を総合し、学生、教員、社会人が共に学ぶ直接的な教養の方法を模索してきました。教養研究センターも大きな試練に直面しています。

この状況を踏まえて、教養研究センターは、慶應義塾の方針のもと、学生の安全と健康に最大限の注意を払いつつも、教養研究センターの使命を見失うことなく、研究教育機関としての社会的責任を果たしていく所存です。設置科目の一部休講、当初の予定を変更しオンラインによる教育形態への切り替えを余儀なくされつつも、教養研究センターは、この状況をただ受動的に耐え忍ぶばかりでなく、むしろ、一つの機会ととらえ、新しい教養研究・教養教育の方法を模索していきたいと思えます。

「教養」は、不要不急なものではなく、人間にとって絶対的に必要であり、生きていく上でなくてはならないものです。いかなる逆境にあっても教養の灯を消してなりません。そのような決意でこの状況に臨んでまいりますので、日頃、教養研究センターの活動にご理解をいただいている皆様が変わらぬご支援をなにとぞお願いいたします。また、提言がありましたら是非とも教養研究センターにお寄せください。

新型コロナウイルス感染症について（本学の対応まとめ）

<https://www.keio.ac.jp/ja/news/2020/2/5/27-67413/>

2020年4月1日

教養研究センター所長 小菅隼人

副所長 片山杜秀

副所長 高橋宣也

副所長 荒金直人

副所長 瀧本佳容子